

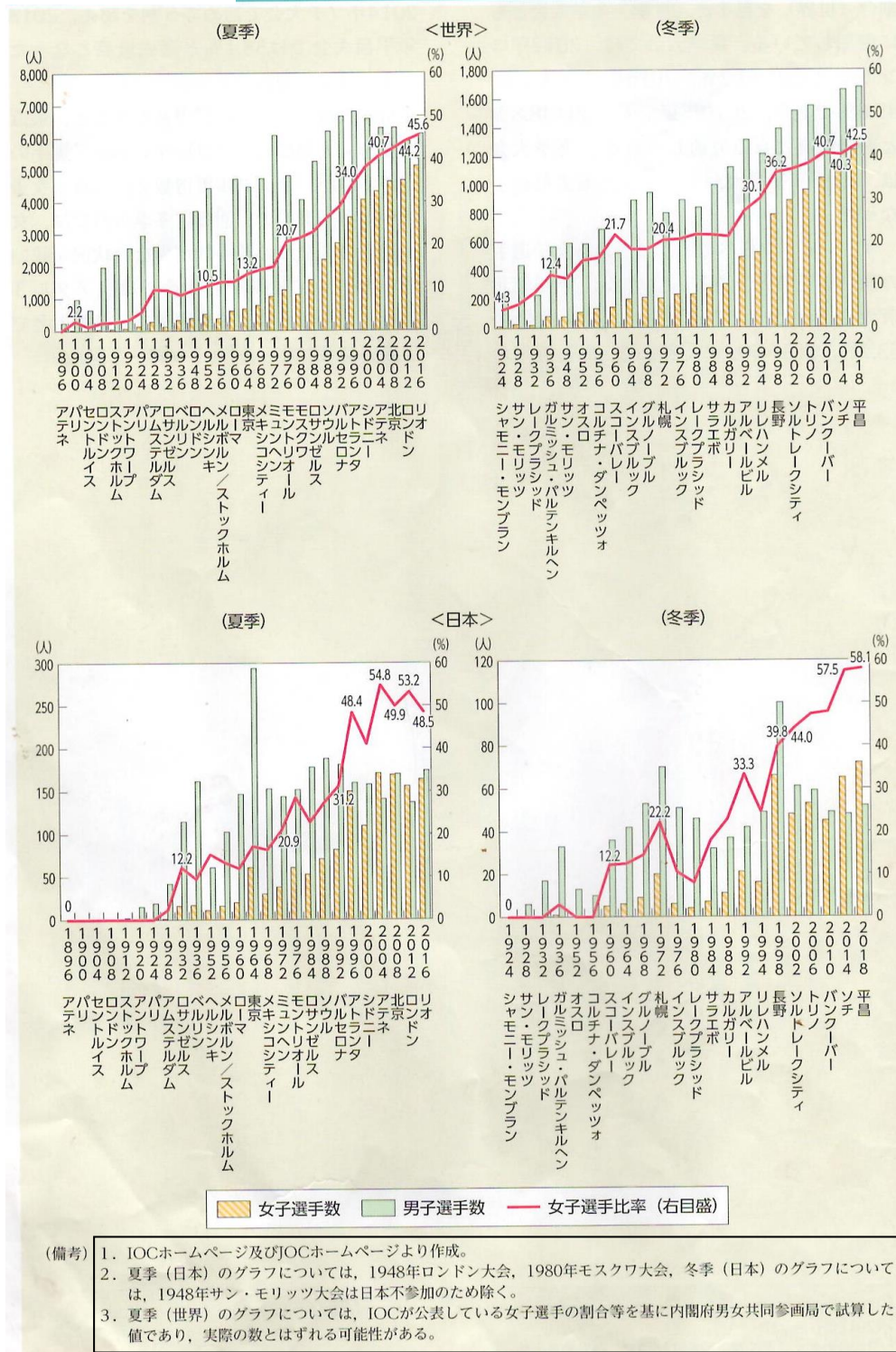
男女共同参画社会をつくる

～男女共同参画に関するQ&A～

Q51 スポーツ分野における男女共同参画の状況を教えてください。

A51 オリンピック・パラリンピック競技大会を中心にスポーツ分野における男女共同参画の歩みを述べます。(世界と日本)

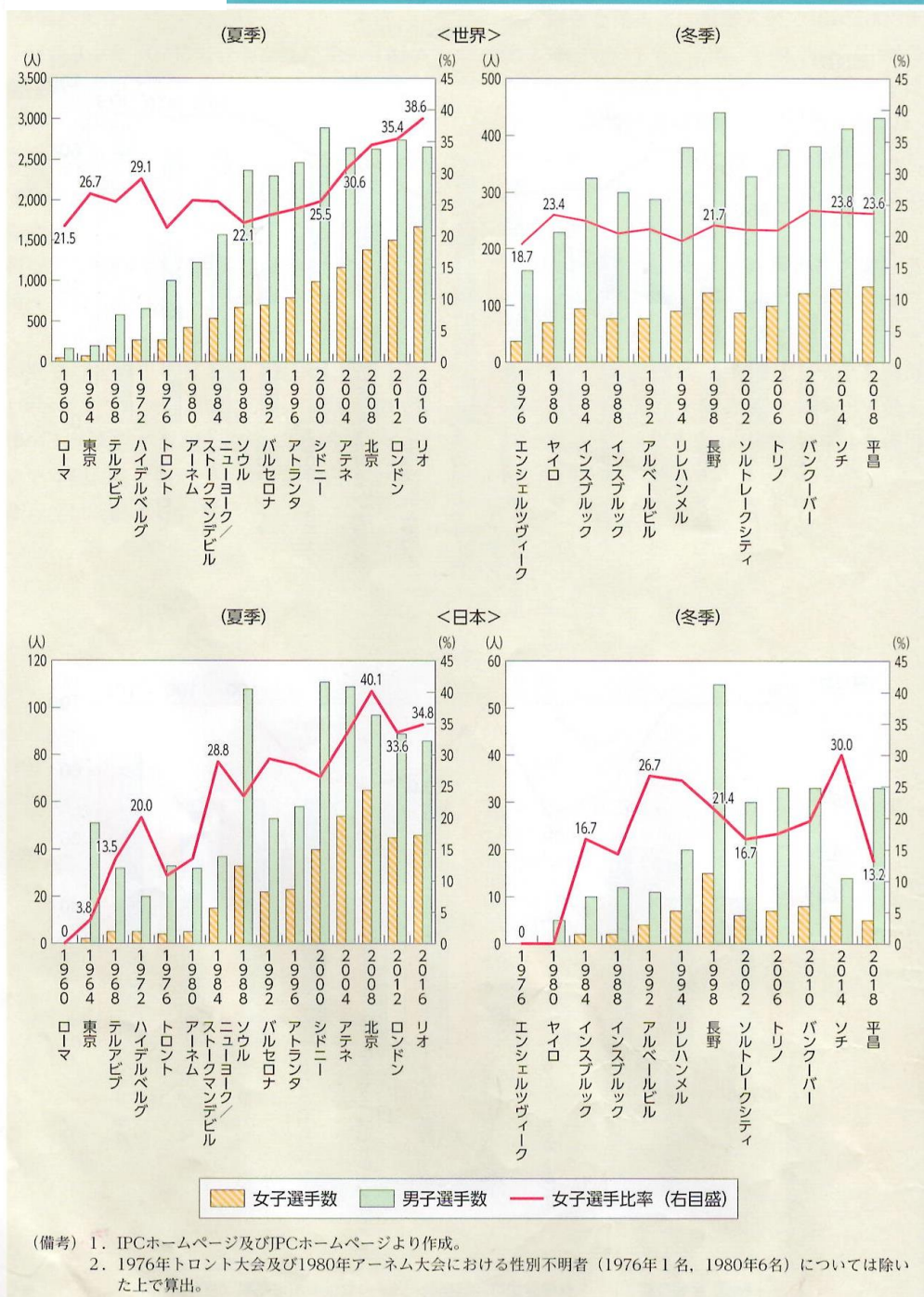
オリンピック出場選手に占める女子選手の割合 (世界と日本)

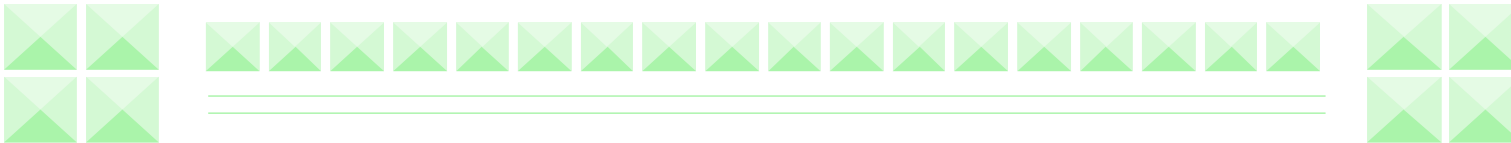


オリンピック出場選手に占める女子選手の割合（世界）を見ると、夏季・冬季大会ともに増加している。夏季大会では、2012年ロンドン大会は44.2%、2016年リオ大会は45.6%であり、2020年東京大会では48.8%と過去最高となる見通しである。冬季大会は、2018年平昌大会で42.5%と過去最高となった。

オリンピック日本選手団に占める女子選手の割合を見ると、夏季大会では、2008年北京大会で49.9%、2012年ロンドン大会で53.2%、2016年リオ大会で48.5%と近年おおむね半数で推移している。冬季大会では、2014年ソチ大会で初めて5割を超え、2018年平昌大会では58.1%と過去最高となった。

パラリンピック出場選手に占める女子選手の割合（世界と日本）





パラリンピック出場選手に占める女子選手の割合（世界）を見ると、夏季大会では、1988年ソウル大会以降増加しており、2004年アテネ大会で3割を超え、2016年リオ大会で4割に近付いた。一方、冬季大会では2割程度にとどまる。

パラリンピック日本選手団に占める女子選手の割合を見ると、夏季大会では、2008年北京大会40.1%、2012年ロンドン大会33.6%、2016年リオ大会34.8%、近年は3~4割程度で推移している。冬季大会では、2014年ソチ大会で過去最高の3割となったが、2018年平昌大会では13.2%に低下した。

出所 平成30年版 男女共同参画白書

